

かお・人・interview

2025年1月30日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
博多港湾・空港整備事務所 所長

苔口 聖史氏

KOKEGUCHI Kiyoshi

博多港湾・空港整備事務所は、九州一の規模を誇る博多港、多くの利用者が訪れる福岡空港、そして世界文化遺産として有名な開港がある三池港を所管している。海と空の整備は異なる規制や技術、環境条件が複雑に絡むため、日々の業務は調整や連携が欠かせない。近年は働き方改革や担い手問題も加わり、一層の柔軟性と効率化が求められてきた。地域経済の発展に貢献するため、さまざまな取り組みを進める苔口所長に話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

50歳間近で初めて所長勤務を経験しています。しかも、60人規模の港湾空港事務所は全国でも大所帯の事務所です。所管は九州最大の博多港と福岡県南部地域の産業・物流拠点を目指す三池港、最も利用者の多い福岡空港の整備を担当しています。これまでは本省や整備局勤務が中心で、予算、企画、調査が主な業務でしたが、今回は契約事務や工事実施、安全・労務管理、人事、組織運営など、幅広い分野をほぼ初めて経験しています。毎日右往左往していますが、同時に多くの職員に支えられていることを強く実感しています。こうした中で感じたのは、風通しの良い職場環境を作り、部署間のつながりを強化することです。特に港湾と空港の間では、意外なところで複雑な連携が求められます。これらを円滑に進めるため、積極的な働きかけと、チームとしての一体感を育む場を作っていきたいと思います。

また、地域の関係者や企業の皆さんが頻繁にあいさつに来られる機会を通じて、地域や業界の実情についてしっかりと意見交換を行っています。そうした活動を通じて、少しでも多くの皆さまに貢献できるよう努めていきたいと思っています。



▲博多港アイランドシティ地区コンテナターミナル

Q 過去の赴任先で、思い出深い仕事や出来事

九州地方整備局勤務は今回で3回目です。東海道・山陽新幹線沿線都市を中心に勤務してきましたが、利便性や、住環境、自然



環境、食べ物、飲み屋街の豊富さなど全ての面でバランスがよい福岡市が気に入って、10年ほど前に居を構え、福岡市民として暮らしてきました(とはいえ、ほとんど単身赴任でした)。約9年ぶりに福岡に戻ってきましたが、今の福岡市は、単身赴任時からはとて想像できるものではない程に変わってしまったと感じています。前は、ちょうど消費税が5%から8%に上がるタイミングで、2020年のオリンピックが終わったら地価が下がると言われていましたが、結果として福岡市の地価は全国平均を上回る上昇を続けています。また、あのアイランドシティの土地が都市機能用地を含め完売したと聞き、いまだに半信半疑です。

また、この間に世界中からインバウンドが来訪するようになり、ここ福岡の観光地も日本人ではなく外国人であふれています。海の玄関口である博多港にも数多くの外国クルーズ船が寄港するようになり、今では毎日のように大型クルーズ船が中央埠頭に寄港する姿をみて、違和感がなくなりました。

一方で、コロナ禍以降労働規制の強化も相まって、急激な労働者不足が各分野で顕著化しました。バスや鉄道の地域公共交通及びトラックドライバーの担い手不足については、新聞紙上にも頻繁に取り上げられていますが、実は建設分野においても人手の確保が大きな課題となっており、これが今後の公共投資に大きな陰を落としていくのではないかと心配しています。

Q 事務所の紹介(事業内容)

博多港については、九州・西日本を支える重要な役

割を担っており、航行する船舶の安全を確保するため、航路・泊地の浚渫工事等を実施しています。浚渫により発生した土砂は、地域の声を受け止めながら窪地の埋め戻しに有効活用し「環境改善」を図っています。

昨年度さらに一步踏み込み、豊かな博多湾を目指し有識者等を含めた意見交換会を立ち上げました。森・里・川・海の繋がりの大切さを再確認し、豊かな環境を次世代につなぐため「環境創造」を目指すべきとの意見が交わされました。ここでの議論の成果は、同年10月の「全国アマモサミット2023inふくおか」にて、九州地方

整備局より発表を行っております。今後は、具体的に環境創造策として浚渫土砂を活用した浅場の造成に取り組む予定です。県南を中心とした地域の物流を支える三池港では航路整備を行っています。

また、福岡空港については、旅客数、発着数とも滑走路1本の空港ではいずれも国内最多となっており、逼迫した利用状況と

なっています。さらなる需要増加へ対応するため、輸送拠点としての機能強化とともに、災害時の航空機の安定的な運航を確保するための整備を実施しています。

Q 今年度の事業概要

持続的な経済成長の実現を目指し、港湾の機能強化・航空ネットワークの充実を図っています。まず、博多港の香椎パークポート地区でコンテナ船の荷役の安全確保のため、岸壁の改良に令和3年度より取り組んでいます。箱崎ふ頭地区に関して、船の荷役の安全確保のため、岸壁の改良に令和3年度より着手するとともに箱崎ふ頭に着岸する大型穀物船の航行安全の確



▲博多湾NEXT会議 アマモ種子選別作業

保のため航路・泊地の改良に令和4年度より取り組んでいます。中央航路地区では海上交通ネットワークの安全性を確保するための航路の改良に令和元年度より取り組んでいます。

福岡県南部地域の基幹産業を支える三池港では港湾施設利用の安全性を確保するとともに海上交通ネットワークを維持するための航路の改良に平成30年度より取り組んでいます。

福岡空港は、滑走路処理能力を向上し、航空機の混雑・遅延の解消及び将来の航空需要への適切な対応を図るため、滑走路増設事業に平成27年度より着手し、今年度末の完成に向け取り組んでいます。



▲三池港(大牟田)



▲福岡空港滑走路増設事業 夜間工事状況



▲博多港親子見学会 業務艇「なじま」

Q地域との連携・協働面について

前職が京都府港湾局で港湾管理者だったこともあり、地元市との調整や地域のイベントへの参画、みなとオアシスイベントの主催及びクルーズ船の受け入れ対応など、どちらかといえば地域連携・協働が主業務でした。ですが直轄事務所の業務は所管が整備限定のため、どうしてもイベントを主導することが難しいと感じております。とはいえ、広報活動として、業務艇なじまを活用した現場見学会や地域のお祭りへの参画など、やれるところはあるので肅々と活動していきたいと考えています。

Q地域建設業界への要望やメッセージ

建設業は地域の守り手として生活基盤を支え、社会を成り立たせています。しかし現在、業界の人材不足は喫緊の課題です。この状況を打開するためには、業界の魅力を理解してもらう必要があります。若い人たちが「ここ、面白いな」と感じられるような仕事をするためには、彼らが自由に想像し、アイデアを膨らませることのできる環境を提供することも大切です。

例えば、港湾や空港の整備についても、「こうしたらもっと便利に、楽しくなるのでは?」という具体的な発想や創造を抱かせる場所。このような前向きなエネルギーを持つ若手が集まることで、地域に必要な建設事業が向上し、地域社会がより良くなっていくのです。未来を見据えた発展を実現するために、受発注者双方が意見交換を行い、課題を解決していきたいと思っています。

Q健康法や趣味、座右の銘など

趣味と仕事の両方に関連しますが、経済の動きに気を付けています。港湾は経済活動、特に国際経済活動の中心です。為替や株価、景気、商品の値動きなどが最終的に貨物の動きに影響を与えるため、これらの動向は常に注視しています。基本的にインドアなので、運動は得意ではありませんが、今月から地域の方に誘われてスロージョギングに参加しています。運動習慣がなかったので、新鮮な気持ちで走っています。

座右の銘は、以前は「臨機応変」です。最近は何事にも思い悩むことはせず「ケセラセラ(なるようになる)」と柔軟に対応し、結果を受け入れるようにしています。

プロフィール



大阪出身、49歳。
 H12年 4月 港湾局建設課 採用
 H14年 4月 道路局高速国道課調査係長
 H16年 4月 大臣官房公共事業調査室係長
 H21年 4月 港湾局海岸・防災課
 災害対策室課長補佐
 H24年11月 九州地方整備局 港湾空港部
 港湾空港環境対策官

H27年 7月 九州地方整備局 港湾空港部港湾物流企画室長
 H28年 4月 中国地方整備局 港湾空港部計画企画官
 H29年10月 観光庁国際観光課総合計画室長
 R 1年 7月 中部運輸局交通政策部長
 R 3年 7月 京都府商工労働観光部・建設交通部 港湾局長
 R 6年 7月 現職